

第2期岩手県自転車活用推進計画の概要



第1章 総論

○計画策定の趣旨

- 自転車活用推進法(平成28年法律第113号)第10条に基づき、本県における自転車を活用した環境負荷の低減、健康増進、観光振興等の促進を目的として、令和3年3月に第1期岩手県自転車活用推進計画(令和3～7年度)を策定
- 今後も継続して取組みを推進していくため、第2期岩手県自転車活用推進計画(令和8～12年度)を策定するもの

○計画の位置付け

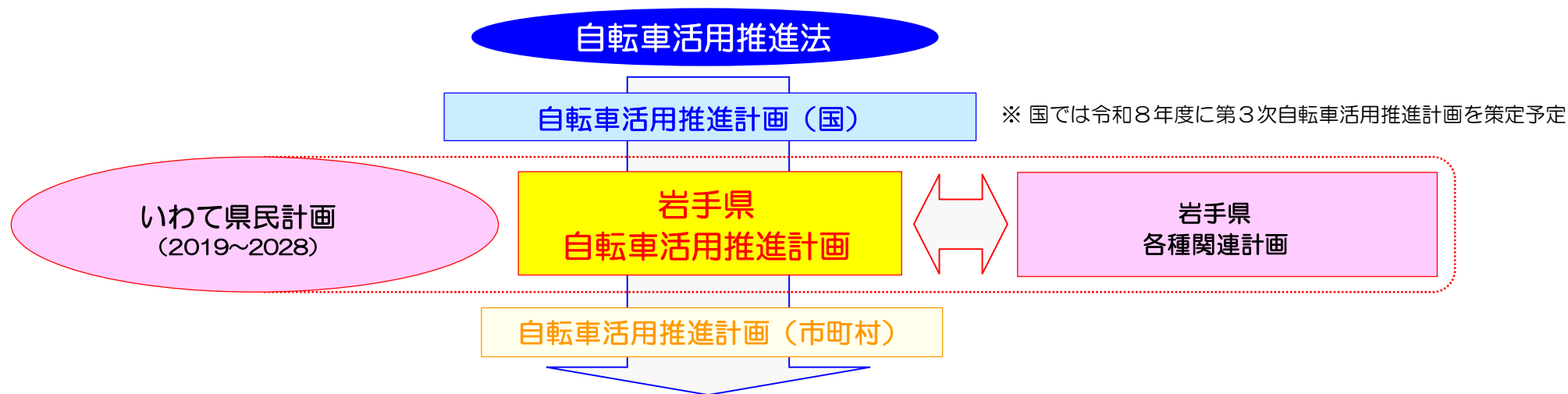
- 「いわて県民計画(2019～2028)」を始めとする本県の各種関連計画を踏まえ、法第10条の規定に基づき、国の自転車活用推進計画を勘案して策定した都道府県版の自転車活用推進計画であり、本県の自転車に関する施策の指針
- 法第11条の規定に基づき、市町村が自転車活用推進計画を策定する際に、国の自転車活用推進計画とともに参考となるもの

○計画の期間

- 令和8年度(2026)から令和12年度(2030)の5年間

○計画の対象地域

- 岩手県全域



自転車を活用した環境負荷低減、健康増進、観光振興等

第2章 現状と課題

○岩手県の自転車を取り巻く現状と課題

利用環境

- 自転車通行空間の整備が不足しており、更なる整備促進が必要
- 3路線ある県管理自転車道線は舗装のひび割れ等が発生し道路の老朽化が進行
- 自転車ネットワーク計画を策定している市町村は2市(盛岡市、北上市)のみ(R6)
- 市町村版の自転車活用推進計画を策定しているのは3市(盛岡市、北上市、陸前高田市)のみ(R6)
- 市街地部では荷さばき車両や放置自転車等による自転車通行の阻害が発生
- サイクリングルートや駐輪場等の自転車関係の情報発信が不足

安全安心

- 自転車の交通事故は5月～11月に多く発生しているが毎年2割程度は冬期間に発生
- 自転車の交通事故は自転車交通量が多い内陸部の盛岡市、奥州市、北上市、一関市、滝沢市、花巻市、矢巾町の7市町合計で全体の約9割(R6年)
- 自転車の交通違反はほぼ横ばいで推移しており、指導警告件数はヘッドホン使用、無灯火、携帯電話等使用の3項目の合計で全体の約5割(R6年)
- 通学等での自転車利用が多い高校生の自転車事故は児童生徒全体の約7割(R6年)
- 災害時には自動車や公共交通機関が利用できなくなるおそれ
- 自転車の安全で適正な利用を促進するため令和5年4月に「岩手県自転車条例」が施行

移動環境

- シェアサイクルを導入している市町村は2市(盛岡市、二戸市)(R6)
- 鉄道事業者と連携したサイクリートレイン導入の検討が必要
- 自転車通勤の割合が低い(R2年:県6.2%(全国11.3%))

健康・脱炭素

- 65歳未満の働き盛りの世代で生活習慣病等による年齢調整死亡率が高い
- 自転車を利用する運動を実施した県民の割合は横ばい傾向(R3:8.4%⇒R6:8.5%)
- 自転車通勤の割合が低い(R2年:県6.2%(全国11.3%))
- 自転車競技施設やサイクリイベント等の情報発信が不足

観光振興

- サイクルツーリズムの基盤となるサイクリングルートや案内看板等が不足
- サイクリングルートやサイクリイベント等の情報発信が不足
- サイクリストの受入環境が整っている施設として登録普及を進めている「いわてサイクルステーション(R4.4創設)」の岩手県広域サイクリングルート沿線の登録促進等、更なる普及が必要
- 岩手県広域サイクリングルート(R6.3設定)の周知が不足しており、更なる情報発信が必要



▲自転車通行空間の整備状況(盛岡市)



▲積雪時の道路状況(盛岡市)



▲いわてサイクルステーションのリーフレット

第3章 取組分野、施策等

○取組分野、目標及び施策等

・本県の自転車を取り巻く現状と課題を踏まえ、「利用環境」、「安全安心」、「移動環境」、「健康・脱炭素」、「観光振興」の5つの取組分野を設定

・5つの取組分野ごとに本県の実情に応じた目標を掲げるとともに、それぞれの目標を実現するための9つの施策を実施

○具体的推進方策

・施策ごとに実施する具体的推進方策を定め、主要な指標を設定

I 利用環境 【目標】自転車の利用拡大のための良好な環境創出

施策1 自転車通行空間等の整備や維持管理の推進

- ①自転車通行空間等の整備
- ②自転車通行空間や自転車道線等の適切な維持管理
- ③道路標識や道路標示等の改善

【指標】

県管理道路における自転車通行空間の整備延長(累計)
4.9km(R6(2024))⇒150.0km(R12(2030))

施策2 まちづくりと連携した自転車利用環境整備の推進

- ①市町村自転車活用推進計画等の策定支援
- ②市町村による路外駐車場の整備等に対する支援
- ③地域のニーズに対応した駐輪場の整備促進
- ④市町村のシェアサイクル導入に対する取組への支援

【指標】

市町村自転車活用推進計画策定数(累計)
3市町村(R6(2024))⇒6市町村(R12(2030))



▲自転車通行空間の整備状況
(盛岡市)



▲シェアサイクルの導入状況
(盛岡市)

Ⅱ 安全安心 【目標】 自転車を安全に安心して利用できる社会の実現

施策3 自転車の安全利用の促進

- ①自転車利用者に対する指導・取締りによる自転車の安全な利用の促進
- ②交通安全意識高揚に向けた広報啓発
- ③違法駐車に対する規制等の検討
- ④災害時における自転車活用
- ⑤損害賠償責任保険等への加入の促進
- ⑥自転車通行空間等の整備(再掲)

【指標】

自転車に関する交通事故件数

145件以下(R6(2024年))⇒125件以下(R12(2030年))



▲岩手県自転車条例 ポスター

施策4 学校における交通安全活動の推進

- ①児童生徒の安全な自転車利用促進に向けた交通安全教室の開催
- ②高校生の自転車通学ルートでの安全点検
- ③自転車通行空間等の整備(再掲)

【指標】

道路管理者が自転車通学ルートでの安全点検(2巡目)を実施した高校の割合(累計)

0.0%(R6(2024))⇒100%(R12(2030))



▲交通安全教育の実施状況

Ⅲ 移動環境 【目標】 自転車の役割拡大による良好な移動環境の実現

施策5 他の交通機関と連携した自転車移動環境向上の推進

- ① 自転車と地域の公共交通等との連携の促進
- ② 市町村のシェアサイクル導入に対する取組への支援(再掲)
- ③ サイクルトレインの実施への支援
- ④ 自転車通勤の促進

【指標】

「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクトの宣言企業・団体数
0企業・団体(R6(2024))⇒ 5企業・団体(R12(2030))



▲サイクルトレイン実証実験状況①(JR花輪線)
(出典：花輪線利用促進協議会)



▲自転車通勤導入の手引きによる広報啓発



▲サイクルトレイン実証実験状況②
(三陸鉄道リアス線)

IV 健康・脱炭素 【目標】 自転車利用の促進による健康増進・脱炭素化

施策6 サイクルスポーツ振興の推進

- ①自転車関連の大会等の開催の促進
- ②自転車利用を促進するための効果的な情報発信(再掲)

【指標】

自転車関連の大会等への参加者数
1,672人(R6(2024))⇒2,500人(R12(2030))



▲自転車関連大会の実施状況
(栗駒焼石ほっとライド)

施策7 自転車を活用した健康づくりの推進

- ①自転車を活用した運動習慣の定着による体力の維持・向上
- ②自転車の利用促進による環境負荷軽減の推進
- ③自転車利用を促進するための効果的な情報発信(再掲)
- ④自転車通勤の促進(再掲)

【指標】

自転車を利用する運動を実施した県民の割合(累計)
8.5%(R6(2024))⇒12.0%(R12(2030))



▲岩手県広域サイクリングルート
サイクリングツアー2025の実施状況
(平泉・世界遺産周遊ライド)

V 観光振興 【目標】 サイクルツーリズム等の推進による観光振興

施策8 地域資源を生かしたサイクルツーリズムの推進

- ①官民連携による広域的なサイクリングルートの整備
- ②自転車活用による観光地域づくりの推進
- ③サイクルイベントの振興を通じた地域の活性化の推進
- ④自転車通行空間等の整備(再掲)
- ⑤自転車利用を促進するための効果的な情報発信(再掲)

【指標】

広域サイクリングルートにおける路面標示や案内看板が整備された市町村数(累計)

0市町村(R6(2024))⇒24市町村(R12(2030))

施策9 地域特性を生かしたサイクリング環境の提供

- ①道の駅等のサイクリング環境の向上
- ②サイクリストと連携した快適なサイクリングルートの確保
- ③自転車利用を促進するための効果的な情報発信(再掲)

【指標】

いわてサイクルステーションの登録数(累計)

79施設(R6(2024))⇒200施設(R12(2030))



▲岩手県広域サイクリングルートのサイクリングマップ



▲道の駅もりおか渋民のサイクルラック設置状況

第4章 計画の推進方策

○計画の推進体制

- 地域の実情を踏まえ、市町村等の関係機関との適切な役割分担の下、相互に連携した取組を展開

○計画のフォローアップ

- 毎年度、指標の進捗状況と施策の実施状況等の確認を行い、その結果を岩手県ホームページで公表
- 社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて適宜、計画を見直し



計画の推進に向けたPDCAサイクル